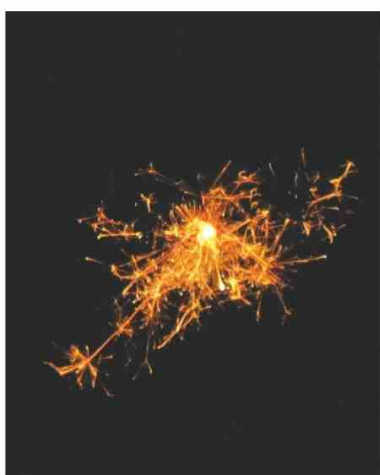


ほっとけない東日本

知りたい！ 知らせたい！ 被災地生の声



2011.8.27 記録集

ほっとけない+Q

目 次

「ほっとけない東日本」への思いとほっとけない連鎖（高木 理恵）	・ ・ ・ ・ P 1
「ほっとけないをほっとかない！」（藤沢 進一）	・ ・ ・ ・ ・ P 2
「ほっとけない東日本」感想・反省（共育プラザ南小岩）	・ ・ ・ ・ ・ P 3
被災地が抱える『3.11』を知る試み（竹迫 和代）	・ ・ ・ ・ ・ P 4
ゲスト①渋谷秀樹さんのお話と意見交換（渋谷チーム ファシリテーター）	・ ・ ・ ・ P 6
ゲスト②大河原伸さんのお話と意見交換（大河原チーム ファシリテーター）	・ ・ ・ ・ P 8
ゲスト③山口俊文さんのお話と意見交換（山口チーム ファシリテーター）	・ ・ ・ ・ P 10
『夕市』記録集・総括（竹原 京美）	・ ・ ・ ・ ・ P 14
布絵ワークショップ（高島 奈穂美）	・ ・ ・ ・ ・ P 17
「キャンドルシェードワークショップ」報告（山下 匡紀）	・ ・ ・ ・ ・ P 19
8. 27によせて（島田 久市）	・ ・ ・ ・ ・ P 20
江戸川総合人生大学の力（鈴木 英也）	・ ・ ・ ・ ・ P 21
「ほっとけない東日本 知りたい！知らせたい！被災地 生の声」は、 万華鏡のようでした（佐谷 和江）	・ ・ ・ ・ P 22
協力者・協賛者名簿	・ ・ ・ ・ ・ P 24
関係資料	・ ・ ・ ・ ・ P 26

「ほっとけない東日本」への思いとほっとけない連鎖

ほっとけない代表 高木 理恵

「ほっとけない東日本」というイベントを行うきっかけは、江戸川総合人生大学江戸川まちづくり学科2期生の島田久市さんからのつぶやきでした。

「江戸川花火大会も中止になってしまった。せめて、被災地への鎮魂を込めて“えどがわ線香花火大会”ができないだろうか。」

私たちほっとけないのメンバーは、島田さんの思いをほっとけなくなりました。

「えどがわ線香花火大会」に向けての打ち合わせを重ねていくうちに、メンバーそれぞれの被災地への思いがいろいろな形で出てきました。被災地で暮らす友人への思い、被災地となったふるさとへの思い、私たちが暮らすまちへの思い、それらの思いを丁寧に織り込みながら「ほっとけない東日本」というイベントをつくりました。そして今回島田さんがほっとけないのグループに参加することにより、「ほっとけない+Q」というユニットで行うことになったのです。

ほっとけないの活動は不定期です。ほっとけないのメンバー3人が「ほっとけない」ことをテーマに立ち上がり、みんなにもそのテーマに関心をもってもらうようなイベントを行ってきました。そんな私たちを、家族をはじめまわりの人たち（江戸川総合人生大学学生、地域、商店街、行政、友人などなど）がほっとかないでいてくれた、その心意気が今回のイベントを盛り上げ成功につなげたと思います。

ほっとけないというストレートな思いを発信し、それを受けてほっとけなくなる気持ちたちが絡み合うという「ほっとけない連鎖」が少しずつ広がると、まだまだ我がまち江戸川区の隠れた魅力に気づくことができます。

2011年8月27日、「ほっとけない東日本」の会場であるかもひろばには、顔の見えるつながりを形にした「勝手に友好都市宣言」が出来る程、いろいろな地域の方々が集まりました。貴重な被災地の生の声を届けていただいた宮城県石巻市の渋谷秀樹さん、福島県田村市の大河原伸さん、大変な状況の中で快く参加していただきありがとうございました。

いたらない所を反省しつつ、これからも「ほっとけない！」と声に出して「ほっとけない連鎖」の波にのるとワクワクするような心に残る活動をしていきます。みなさんありがとうございました。そして、これからもよろしくおねがいいたします。

「ほっとけないをほっとけない！」

小岩フラワーロード商店街副会長 藤沢進一

さる3月11日に発生した「東日本大震災」・・・。

未曾有の大危機に日本はもとより、世界中から支援と激励のパワーが寄せられています。

私たち「小岩フラワーロード商店街」も、物資の送付や募金活動など、各界各団体の求めに応じて、積極的に「被災地支援」を展開しております。

そんな時、私たちフラワーロードの仲間である高木理恵さんが私のもとへ飛び込んでまいりました。「被災地の方々のご苦労や不安は他人ごとではない・・・ほっとけませんよ～」以来、《ほっとけない》をキャッチコピーにして会議を重ね、高木&竹原コンビは区内を駆け回り、支援を広げてまいりました。フラワーロードは熱意とボランティア精神に溢れる高木理恵を「ほっとけない～ほっとくわけにはいかない」と、バックアップをしてまいりました。

近隣への挨拶回りを予定していた、開催前日は午後からまさに《ドシャぶりの大雨》に見舞われました。それでも、何事もないかのようにオレンジ色の開催チラシを手に笑顔で現れた高木実行委員長に「まさか・・・この大雨の中を廻るつもりですか？」・・・なんて言えるわけもなく、「さあ～がんばろう」と気合を入れて、二人で外にシャワーを浴びに歩き回りました(*^。^*)



そんなこんなで迎えた8月27日！

幸いなことに☆天候はgood!!! 準備もok!!! ☆ 区役所からも災害対策課課長・健全育成課課長・小岩事務所所長はじめ、多くの方々にご参加いただきました。また、地域からも世代を超えてのご参加をいただきました。

共育プラザ南小岩の娘たちもがんばりました！

被災地からもご参加いただきありがとうございました！

もちろん・・・実行委員も笑顔と汗いっぱいがんばりました！

フラワーロードも気持ちを込めたお手伝いをさせていただきました！

「東日本大震災で被災された方々をほっとけない」という共通の想いを抱いた人が一堂に会した素晴らしいイベントになりました。

本当におつかれさまでした。ありがとうございました。

「ほっとけない東日本」感想・反省

平成 23 年 8 月 30 日

共育プラザ南小岩

○ものすごく楽しかったです。募金活動をして、募金の総額が 7 万円を超えたと聞いてとても嬉しかったし、本当に良かったと思いました。

また、被災地の人話を聞いて、自分にも何かできることはないかと考えるようになりました。本当に楽しかったです。(佐々 中 3)

○楽しかったです。募金活動もやって本当に良かったと思いました。線香花火も楽しかったです。自分たちのダンスも成功してお客さんも盛り上がっていたので良かったです。(松田 中 3)

○初めはちゃんとできるか不安だったけど、みんなが楽しく恥ずかしがらずに募金活動などできたので良かったです。ダンスでは区民まつりにも出場するので、共育プラザの活動を頑張ります。(渡辺 中 3)

○最初はとても緊張したけど、いろいろと経験できてやって良かったと思いました。区民まつりにもつながる活動になったので、頑張っていきたいと思います。(川原 中 3)

中高生にとっては朝から夜までの長い時間の活動となりました。募金活動も初めての経験でしたが、自分たちで呼びかけを行ったりとても頑張っていたと思います。なにより、呼びかけに応え募金をしてくださる方がいることが、中高生の活動の励みになったようでした。

昼市では、もっと事前に被災地について話し合ったりしておいた方が中高生の積極的な参加につながったのではないかと感じました。たくさんの地域の方々の中でもしっかり発言ができるような準備が必要でした。

夕市でのダンスは、お客さんが盛り上がって応援してくれたので、楽しく踊れたようです。ラジカセの音質が悪く、外で踊るときの工夫が必要でした。

地域の中で中高生の存在を PR する場を提供くださったことに感謝し、継続した活動にしていきたいと思います。ありがとうございました。(鈴木)

募金総額・・・76,671円

被災地が抱える『3.11』を知る試み

昼市責任者 竹迫 和代

南小岩コミュニティ会館2階のスポーツルームをお借りして、13時30分～16時30分の3時間をかけ「昼市」は開催された。当日は曇り空で涼しいお天気。心配された室内熱中症も大丈夫そうだ！

さて、いくら被災地の方をお招きするからといって、3時間まるまるお話を聴くだけにはしたくない。もっと被災地の方と参加者がひざを突き合わせ、想いや元気を交換できる「ホットな場」にしたいと考えた。支援する側、される側という壁をなくし、集まった全ての人に「震災復興へつながる気づき」が生まれてほしいと願ったからである。そこで、3時間を3つの「幕」でわけ、ゲストの講演や意見交換を行う対話型プログラム、参加者が被災地への想いを発信する参加型プログラムを工夫した。

【第一幕：こころの窓をあける】

昼市の第一声は、ほっとけない代表の高木理恵の挨拶からスタートした。そして、今回多大なご支援をいただいた江戸川区役所災害対策課の秋元孝行課長の挨拶、フラワーロード商店街（地元商店街）副会長の中川武久さんの挨拶と続き、共育プラザの中高生による「開会宣言」で幕が開いた。

共育プラザの中高生による開会宣言



まず、影絵巻の上演で定評のある「おと絵がたり」さんをお招きし、『貧乏神と福の神』を上演していただいた。おと絵がたりさんは神奈川県川崎市を拠点に活動している市民団体である。大型の影絵巻とオリジナルの音楽と語りや効果音で地域に伝わる昔話や様々な物語を演じており、最近は被災地へむけての「応援影絵巻ワークショップ」にも取り組んでおり、今回のイベントにもおいでいただいた。

【第二幕：こころをよせあう】

宮城県石巻市から渋谷秀樹さん、福島県田村市から大河原伸さんをお招きし講演をお願いした。渋谷さんは、石巻市社会福祉協議会の職員であり市の福祉や青少年育成に尽力されてきた方である。今年7月より災害復興支援対策課に異動し多忙を極めているとのこと。また、津波により親族を5名も亡くされている状況の中で、今回の依頼を快く引き受けてくださった。一方、大河原さんは30年近く有機農業を実践してこられた方である。今回の福島第一原発事故により、風評被害にさらされ、それでも「この土地で農業をがんばっていく」と決意されたとのこと。お二人とも、客観的に3.11の現実をお話しくださり、江戸川の地に多くの教訓を残してくださった。

また、江戸川区職員で気仙沼市の避難所支援に行かれた山口俊文さんにも講演をお

願いました。

各ゲストの詳細な講演内容および参加者との意見交換の内容は、この後のページで改めて報告する。

また、休憩時間などを利用して視覚的に被災地の情報を知るために、会場の壁面には渋谷さんからご提供のあった石巻市の被災写真を展示。また、大河原さんが25年発行し続けている「やさい通信」の最近号を掲示した。

【第三幕：こころの声を表現する】

おと絵がたりさんと共に、全ての被災地の方にむけての「応援影絵巻づくり」を行った。長く伸ばした透明フィルムの上に、参加者各自が油性マジックを使って思い思いのメッセージを描いていくというものである。絵もあり詩もあり手紙もあり。表現方法は自由だが、参加者がつながってお隣さんとも協働しながら描いていく様子は「人と人とのつながり」そのものであった。



応援影絵巻づくりの様子

最後に、みんなで作成した応援影絵巻を上演し、渋谷さんと大河原さんに一言ずつ頂いて昼市は終了となった。

昼市を終えて、いくつか課題も見えてきた。一つは、120席を用意したが20～30席程の空席があった。なかなか会館の2階まであがって参加するには敷居が高かったのかもしれない。できるだけ多くの区民に“被災地の生の声”を届けたかったが、そのアプローチはまだまだ改善の余地がある。

二つめは、会場の使用時間の問題である。別団体が午前中と夜とで会場を使用する関係上、昼市の運営は開始前30分で会場設営し、終了後30分で撤収しなければならず、大変慌ただしいものであった。特に昼市終了後、参加者の中にはもっと個人的にゲストと話をしたい人もいただろう。掲示してある写真をじっくり見ようにも時間がなかったかもしれない。せっきくの機会なので、「場の余韻」が味わえて交流にもつながる時間的余裕があればなおよかったと反省している。

最後になったが、今回大きなトラブルもなく昼市を終えることができたのは、江戸川総合人生大学の学生さんの力による所が大きい。会場は、設営も撤収もわずかな時間しかなかったが、学生さんが事前に話し合い、きちんとした役割分担の中でそれぞれの持ち場を完璧に設営してくださった。プログラムが進む中で、幾度か会場レイアウトを変える必要があったが、非常にスムーズに進めることができたのも学生さんの力である。改めて御礼を申し上げたい。何名かの参加者から「あんなに楽しそうにきびきびと動くおじさんたちは、あまり見たことがない！」とおほめの言葉をいただいた。シニア男性（もちろん女性も）の底力はまだまだ未知数である。

ゲスト①渋谷秀樹さんのお話と意見交換

渋谷チーム ファシリテーター 田中優子、金子律子、高島奈穂美

1. 石巻の仮設住宅の実態（数字で見てみる）

3/29 時点避難所の人数 21,335 人 5 ヶ月後 8/15 時点 2366 人（1 割になる）

石巻・ 行政として仮設住宅の目標数 7300 戸 現在 5800 戸完成

しかし入居者は（6 割）その理由は

- ①希望した場所でない。
- ②利便性がない。
- ③格差がある。



2. ボランティアの実態

3/11 の震災の 4 日後 3/15 いち早く石巻市災害ボランティアセンターを立ち上げる。

センターからボランティアに 84483 人を派遣する（7 月 31 日現在）。

ボランティアの主な活動としては

- ①住居に入った泥だし
- ②瓦礫の撤去
- ③その他

人の手では限界があるものが未だに手つかず残されている。

- ①魚工場の機材
- ②家屋一面を埋め尽くしたヘドロ

3. 掲載した当時の写真を見ながら話を進める

大津波によって

- ①丘に打ち上げられた舟
- ②橋が流され道路が分断
- ③逃げる車、人が津波にのみ込まれていく様子
- ④ビルの 3 階の天井まで水が押し寄せた
- ⑤亡くなられた方の棺が並べられている等々

当日掲載された十数枚の写真を見ても震災の凄まじさが伝わってきた。

更に渋谷さんご自身ご親族を 5 人も亡くされ未だに姪御さんが行方不明の状態の中、石巻再建に懸命に活動をされている姿に参加者は感銘を受けていた。

4. 意見交換

- Q1) 日常的に避難訓練は行われていたのか？
- Q2) 災害ボランティアセンターの役割は？
- Q3) 震災直後よりボランティアが減っているのでは？
- Q4) 仮設住宅での支援はどのような内容なのか？
- Q5) 一般人として何ができるか？

いろいろな質問に渋谷さんの方からの的確なアドバイスがあった。
なかでも印象に残ったことは救援物資等物の援助の段階は終わり、これからは
{心} のケアが大切になってくる。

最後にこれから起こり得るかも知れない災害に心がける事は？という質問に、
日頃から通帳、印鑑、印鑑証明等々貴重品は纏めていつでも持ち出せるよう準備を
しておいたほうが良いとのアドバイスをいただいた。

石巻市の被災写真を前に語る渋谷さん



夕市での「勝手に友好都市宣言」での調印式の様子↑
石巻市の渋谷さん（左）と福島県田村市の大河原さん（右）

ゲスト②大河原伸さんのお話と意見交換

大河原チーム ファシリテーター 加藤加代子、白井昌夫、千村英子

1. 大河原氏を囲んで前半の30分

田村市

福島第一原発から田村市の一部は30キロ圏内であるが、大河原さんの農地は39キロである。田村市の中でも、福島第一原発との間に一千メートル級の山があるため、風向きによって放射線量が違い、大河原さんの農地は他より低い。



3月15日午後2時

チェルノブイリ事故以後用意していた検知機が鳴り、30倍の値であったため、郡山に避難した。

牛4頭、鶏100羽はそのままにして避難した

ため、翌日餌やりに戻った。農業で家を離れられないこと、高村昇先生（長崎大学）の講演で40歳以上の男性は放射線の影響が少ないと聞いて避難しないことに決めた。

近所のたばこ農家は、早々に植え付けを断念し、今は雑草が生い茂っている。長年頑張ってきた高齢の農民はやる気がなくなった。

風評被害

有機野菜の栽培をしているが、福島の野菜は食べたくないという人がいる。生協は西日本から野菜を仕入れるなど、農家と生協との信頼もなくなり、農家の人たちはどうしたらよいか困っている。こわいこわいという声のみが大きくなった。

野菜の損害賠償

農協に出荷している農家は、農協の過去3年のデータから補償されるが、農協に出していない個人農家は煩雑である。過去3年の3～4月の野菜収入を調べる必要がある。そこで、東電に相談してみて、過去1年の売上の証明できるものがあれば補償されるということがわかり申請した。大河原さんのところは、3・4月葉物野菜の収入が昨年7万円であったので、その半額3.5万円（50%）の補償しか今のところ東電からはない。

意見交換

有機野菜の宣伝をもっとやった方がよい。バックアップしたい。
放射線は安心できるか。手伝いはしたい。

2. 大河原氏を囲んで後半の30分

田村市

半径 20 キロ圏内は入れない。

30 年前から有機農業を始めた。多い時は 60 軒の消費者があったが、原発後は、40 軒足らずとなってしまった。

有機野菜

おいしい野菜が作りたい。

原発事故後の放射線が問題となったが、農薬のことは何も言われなくなった。

野菜が売れない現状がある。一部の野菜の検査数値を特定表示して販売するようにした。



販売の変更

7 月末で 25 年間続けてきた販売システムを止め、8 月から切り替えた。これまでの契約者とはひとまず解約して、「本当に食べてもらいたい人に食べてもらうこと」で、新しく契約をし直した。現在、配達を改めて、8 月から再開した。40 軒の取組が可能になった。

放射線

現在放射線の数値は低いが、その実態がよくわからない。

「47 台プロジェクト」の支援で、検知機供与サポートが実現し、9 月中旬から測れるようになる。

現在数値は低い。

今後は基準値をきっちりさせて、消費者が納得するところで、買ってもらえないか。

意見交換

Q) 米の生育はどうなっていますか？→A) 田植えは遅かったものの順調に来ている

Q) 風評被害にふりまわされた→A) 消費者が声をあげてほしい

Q) 基準値があいまいで、厳しくないのはいけない→A) その通りと思う

補償を 100% 対応するよう支援したい。

20～30 キロ圏内の、その他の農業者の声を聞きたい。

(怒りをどこにぶつけたらいいのか)

3. 大河原さんのつぶやき

山には木々が青々と茂り、草は風になびき、花は明るく咲き、虫たちはいつものように飛びまわっている。今までの風景と何も変わったことはない。それなのに作った野菜を売ることができない。いつもと同じ味のトマトもキュウリも買ってもらえない。私達家族が食べていけるだけの収入があればよいのに、それができない。たくさんの方に理解・協力していただきたい。

ゲスト③山口俊文さんのお話と意見交換

山口チーム ファシリテーター 堀田侔、平野千鶴子、富士野いつ子

山口さんは、4月中旬からの江戸川区職員派遣に伴い、5月の連休明けから1週間気仙沼に出向かれた。行かれた避難所は、面瀬中学校（体育館）避難所で支援活動は運営支援である。

運営支援は、気仙沼職員1名、江戸川区職員4名の体制で、避難者は約200名であった。

主たる支援は情報提供、支援物資等の受付管理、避難所の人員把握、申請書等の受付にある。

＊ 避難所は津波の被害はなかった。



先ず山口さんに、江戸川区は職員の派遣はどのような形を取っているかの質問から入り、次にメインとしての避難所の間取り、そして避難所の一日についてのお話をお聞きし、後は参加者の質問を中心に進めた。

Q1. 江戸川区は職員の派遣についてはどの様になっているのですか。

A1. 江戸川区からの指名ではなく、自分から手を上げ参加した。

Q2. 避難所の間取りは、どの様になっているのか。

A2. 避難所の間取りについての説明。

＊ 避難所の間取りについては、模造紙にその間取りと写真を掲示する。

それに基づき説明される。

「避難所の間取り」

〔住居〕・入居者の専用空間を「1丁目」から「4丁目」の4グループに分け、各丁目から出している当番が避難所全体（トイレ掃除、ゴミ出し、食事の配膳、等）の運営に係わっている。

- ・原則として、一人1マットのスペースが割り当てられている。
- ・世帯は、ダンボールで仕切られている。座ると頭一つ、仕切りの上から出る。また、大部分の世帯が通路側を仕切っていない。
- ・床にはビニールマットが敷かれている。

＊避難当初は、各自が思い思いの場所を占有していたため、移動する時は人を跨ぐこともしばしば。

現在の仕切りになったのは、京都の大学生（建築関係）ボランティアが設置し、一人当たりのスペースを決め全体を整理した。（区画整理のイメ

ージ)

- [ステージ] ・配給物資や支援物資のうち、薬、石鹸やおむつなどの生活用品、食料品、飲料が保管されている。
＊ステージの前に、配膳(給食スタイル)や慰問・イベントのためのスペースがある。
また、健康相談、キッズコーナー(カーペット敷きで児童書、漫画等が備えてある)もある。
- [食事] ・朝食と夕食は自衛隊の炊き出し、昼食は配給物資が出る。
- [倉庫] ・支援物資の内、主として衣類、寝具を保管。性別サイズ別に分類されているが、すべて捌けるかは疑問。冬物が多い。
- [勉強部屋] ・20:30 には一部照明消灯のため、消灯後、21:00~23:00 まで高校生が利用する。
少し大きめのダンボールで囲んだスペース。ランタンを貸し出す。
- [トイレ] ・トイレは水洗が使用できるが、当初、トイレトペーパーを流すことが出来なかったもので、脇のボックスに捨てた。

Q3. 避難所の一日はどのような様になっているのか。

A3. 避難所の一日についての説明。

- ＊ 避難所の一日については、模造紙にその一日の行動表を掲示し、それに基づき説明される。

「避難所の一日」

- 6 : 0 0 起床(途中から避難者の要望により 5 : 3 0 に変更)
7 : 0 0 朝食(自衛隊の炊き出し)
7 : 3 0 掃除(全員) 通学、通勤
1 0 : 0 0 シャワー利用開始(交替制)
巡廻医師団の来所、各種巡廻相談等
1 2 : 0 0 昼食(配給物資(パンとか牛乳、等)
慰問・イベント実施(毎日ではない)
1 5 : 0 0 お茶会
1 6 : 0 0 奈良体操(奈良県から派遣されている保健師が2名常駐(交替制))。
その保健師さんたちが行うので奈良体操と呼んでいる)
1 8 : 0 0 夕食(自衛隊の炊き出し)
2 0 : 3 0 一部証明消灯
2 1 : 0 0 就寝

Q4. 食事は、どのような品が出るのか。

A4. 自衛隊の炊き出しで、基本は、ごはん、味噌汁、おかず一品。

自衛隊の炊き出しには感謝されている。

昼食は、配給物資でパン、牛乳、等である。

Q5．江戸川区でこの様な状態があった場合、どの様な処置が取れるのか。

A5．＊これら以下、江戸川区に関しての質問に対しては、災害対策課の小林さんからもお話がある。

江戸川区では、東日本大震災を踏まえ緊急対策として、出来ているものもあるが、今後進めて行くものについて取り組んでいる。

より情報提供が出来る様にする。

Q6．掲示板には、どの様なものが掲示されているのか。

A6．市が毎日発行している市内の被災状況・復旧状況・手続き等のお知らせ(HPで提供)

鉄道・バスの時刻表、官公署等の移転のお知らせ、医療機関、金融機関一覧、ハローワーク他。状況変化により、1日1回貼りかえる。

Q7．携帯の充電はどうしているのか。

A7．玄関出入り口、掲示板の前に、電話・PC コーナーが設けてあり、そこで充電出来る。

Q8．江戸川区は、千葉・浦安市にも派遣されていると聞くが、浦安市を選んだのはどの様な経緯からか。

A8．隣の県でもあり、千葉・浦安市からの要請もあり派遣している。

Q9．気仙沼に江戸川区職員が派遣された経緯はどの様なものか。

A9．気仙沼市から特別区に支援の要請があり、当時特別区長会会長区の江戸川区で引き受けた。

Q10．被災地とこの避難所(面瀬中学校)とは、どの位離れているのか。

A10．歩いて5分程度の所は津波の被害を受けている。

Q11．被災に備え、最低どの様なものを用意しておけば良いか。

A11．水、食糧を最低3日分位は常備しておく必要がある。

Q12．江戸川区として1番にやらなければいけないと思う点は何か。

A12．個人的な感想だが、ご近所(地域)のコミュニケーションが大切だと思った。

感 想

山口さんは、渋谷、大河原さんとは違う立場、少し違う報告状況の中でのお話、大変難しいものであったと思う。

その中であって、面瀬中学校(体育館)避難所の「間取り図と写真」そして「避難所の一日のスケジュール」を使っの説明は、山口さんのお人柄と相俟って分かりやすいトークだった。

避難所での生活の大変さ、プライバシーの無さを感じた。

ただ、今回の様な大規模な震災が起きた時、江戸川区としてどの様に考えているの

か、また住民はどのような備えが必要か等、をもう少し盛り込めたら、なお良かったと思われるが、時間の関係等もあり出来ず残念だった。

最後、山口さんの“ご近所（地域）のコミュニケーションが大切”には、私たちの日頃でのテーマでもあり共感を覚えた。



気仙沼市の避難所の様子を写真をもとに話す山口さん（前方 右）

『夕市』記録集・総括

夕市担当 竹原 京美

今回のイベントで、夕市を担当するにあたって、計画当初から次の三点を懸念していたにもかかわらず、最後まで対策を講じることができないまま当日を迎えてしまい、非常に反省している。

- ① 天候が不順で、台風も接近しており、雨が降ったときに屋外のイベントをどうするか明確な対策案がなかったこと。また、逆に猛暑日だった場合の熱中症対策。
- ② 南小岩コミュニティ会館・共育プラザ・災害対策課に借用する備品の数の把握に甘い部分があり、いざ使うときになってばたばたしたこと。特にテーブル・椅子は昼市と使用時間が重なっており、圧倒的に数が不足していた。
- ③ 二つのイベントを同時開催したのと同じ状況だったため、夕市会場設営スタッフの人数を十分確保できなかったこと。交通整理・駐輪場整理スタッフを明確に決めなかったこと。

にもかかわらず、大きな事故・混乱なくイベントを開催することが出来たのは、未熟な私を会場設営責任者と認め、決定事項に反論することなく速やかに行動してくれた、島田さん(ほっとけない+Q)鈴木さん(裏ほっとけない?) 吉野さん・棚橋さん(江戸川総合人生大学旧事務局長)柴山さん(元上小岩小学校PTA会長)の各氏の尽力に大部分寄与している。ここに改めて御礼申し上げたい。

以下、良かった点・悪かった点を「今回のイベントの参考になるように」という視点で思いつくまま羅列する。

まず何よりも、当日の天候が成功の大きな要因であったことは間違いない。雨が降らなかったこと、午前中強く吹いていた風が午後には収まったこと、気温が適度に高かったこと(かき氷・ビールの売り上げに影響あり)、曇っていたので日差しがきつくなかったこと等々は、本当にラッキーであったと思う。

会場設営で、まずしたことは、島田さんがロープに印を付けたものを予め用意して持ってきてくれていたので、それを基本モジュールとして、会場の地面に出店者名を書き込んでいった。これは短時間でおおよその模擬店位置を決定するのに、非常に役に立った。また、会場に誰もいなくなっても、出店者が自分の位置を把握し、準備を開始することができた。



ミスト装置を頼んだのは良かった。西尾レントオール株が早めに準備を開始してくれたので、ミストに濡れては困る出店者(線香花火販売・バザーetc)の位置を早く確定することができた。ミスト装置は風向き・気温・湿度によって設置位置等、微妙な調整が必要だったが、デモンストレーションとして役立ってくれて、始まる前から子供たちや散歩中の人の目に留まった。もっと暑かったらさらに威力を発揮したと思う。集まった人に当日配布のチラシを配れば良かったと思う。



出店者が皆手際よく準備をしてくれた。藤沢さん(フラワーロード商店街副会長)の提案により三週間ほど前に全体会を開き、出店者同士が顔なじみになっていたのが功を奏した。不思議な連帯感が生まれたのは「ほっとけない」が最も意図したことだったと思う。直接会って話をすることの大切さを改めて感じた。



福島県田村市の大河原さんの有機野菜販売は、販売してよかったとしみじみ思った。大河原さんも担当した方々も、収穫・袋詰め・発送・荷受・値付け等で手間がかかって大変だったけれど、好評のうちに完売し(もっと量があっても良かった)少しは大河原さんを勇気付けることができたのではないかなと思った。

居酒屋「かるがも」の存在感がすごかった。提供してくれた品揃えも、さすがにお父さんたちが考えただけあって、大人だけでなく子供にも好評だった。立ち飲みスペースでは、いろいろな人が入り混じり、談笑する姿に感動した。お酒の威力はやっぱりすごいと思った。途中で用意した食材が売り切れた後も、買い足しに走ってくれて、裏メニューまで出てきたのにはびっくりした。



『勝手に友好都市宣言』が思ったより盛り上がった。ちょっとしたいたずら心で言



い出した物なのに、皆が神妙な顔をして調印式をしているのが面白かった。単なる模擬店祭りではなく、イベント主旨を表現する式典として、意義があったと思う。江戸川区代表が共育プラザの女子中学生だったのも良かった。

全体的に出店者・協力者を決定するのが少し遅かったと思う。特に行商チャリ隊は、話だけで本当に出店してくれるのか、直近まで確認出来なかった物もあった。また、一つの模擬店がどの位の大きさなのかははっきりしなかったので、会場配置を考える時に、どの程度スペースを空けておくのが適当なのか、どの店とどの店を隣にすべきか、非常に悩んだ。多くの方が不満に思ったことと思うが、お許しいただきたい。

布絵ワークショップの高島さん(人生大学5期)とキャンドルシェードワークショップの山下さん(地域交流センター)、線香花火大会担当の島田さんが、当日まで一度も顔を合わせて話し合いをすることが出来なかったのは、やはり問題だったと思う。結果としては非常に上手くいったと思うが、直接会って、どんなことをやるのか、どんな思いがあるのかを話し合っていれば、お互いに不愉快な思いをすることはなかったと思うし、もっと良いものが出来た可能性があったことを感じた。これはひとえにコーディネートしたこちらの大きなミスだった。大変申し訳なく思っている。それにしても、出来上がった布絵は、すごく手がかかっていてすばらしいものだったし、線香花火大会の厳粛な美しい雰囲気は、参加した人達の心にきっと残ったことと思う。

もう一つ残念に思うのは、時間の関係でイベント終了後に「親睦会」を開くことができなかったことである。あれだけの思いのある方々が一堂に会する機会は、なかなか持てるものではない。遠くから足を運んでくださった方に、特にお詫びしたい。

なにせよ、今回のイベント成功の鍵は「ほっとけない+Q」をほっとけないと思って沢山の方が参加・協力してくれたことに尽きると思う。地域の方をはじめ、行政を巻き込み、さらには全国にまたがって実に多くの方が手を差し伸べてくださった。

最後に、何ヶ月も前の準備の段階から、協力を惜しまず、かなり無理のある計画にお付き合いいただき、片付けまで完璧にこなしてくださった、江戸川総合人生大学まちづくり学科の5期・6期・7期生の皆さんと関係者、そして少なからず不便な思いをさせた『家族』に感謝したい。

8.27 によせて

えどがわ線香花火大会担当 島田 久市

3月11日。

決して忘れることのない日になりました。
その夜、東日本の夜空に星は輝いていましたか。
風は何事もなかったかのように吹いていましたか。
時間は流れていましたか。



私はテレビに次々に映し出される光景に驚き、何もすることの出来ない自分にいらだっていました。

4月の半ばに江戸川区の花火大会が中止との話をお伺いしました。

思わず、福島県沖合に出動している自衛艦から打ち上げができないのか？などつぶやいてしまいました。無理なことは承知でしたが、「江戸川区線香花火大会を。鎮魂のためにも…」と思ったのは次の瞬間でした。その場におられた皆さんは、一瞬「えっ、それっていいね」と言う表情をされました。

8月27日。

2本の線香花火をともしいただきました。

1本は大震災でお亡くなりになられた大勢の方々、
いまだ肉親の元に戻る事が出来ない方々への鎮魂の火です。



そしてもう一本は、いまなお苦しまれておられるすべての方々への励ましの光です。

私たちの火と光は、私たちの思いは東日本の夜空に届いたでしょうか。
700本ほどのわずかな花火でしたが、きっと伝わったと信じております。



心からご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方皆さんに一日も早く笑顔が戻られることを願っております。

『布絵ワークショップ』の高島さん、シナリオになかったのですが、あまりの素晴らしさに会場を一周してしまいました。ありがとう。

参加された大勢の皆さん本当にありがとうございました。

布絵ワークショップ

布絵ワークショップ・ファシリテーター 高島奈穂美

＜布絵ワークショップのための準備＞

布………大きな布に端布(はぎれ)を貼って一つの作品を作るため、大量の布を集める必要がある。

・今回、大きな布は代表の高木さんの知人から要らなくなったものを頂いた。

・端布に関しては、父親が縫製の仕事をしている関係で大量に入手できた。
のり……布と布同士をくっつけるために、今回は木工用ボンドを使用・小2つ用意。
はさみ…端布を更に小さくするために断ちバサミ1つ・普通のハサミを2つ用意。
その他…今回は地面に布を置いて参加者に作業してもらうことになったので、大型のビニールシートを用意して頂いた。

＜実際にやってみて＞

最初に見本が無いと参加者が戸惑うため、自分が最初に実演してみた。

布切れを適当にペタペタと貼ってモザイクのように色彩のコントラストを楽しんでもらう感覚でいたのだが、端布そのままの形を貼り付けてみたり、大きめの端布を適当に切って貼り付けたりしているうちに、なんとなく「海とヨット」の絵が出来上がっていた。

そこから参加してくれた知人の大人達が「太陽」「動物」「花火」などのモチーフを作り出した。

人によっては、布の質感を出すために立体的に貼り付けたり、布を重ねて貼り付けたり、あえてモザイク模様のような貼り方をしてくれたりもしたが、参加した大勢の子供達にとっては、絵柄の分かりやすいモチーフが参考になったようで、「町並み」や「花火」といった具象的な絵柄が多くなった。また、「ハナビ」などの絵文字を作り出す子どももいた。ハナビのモチーフがおおかったのは、今回のイベントに花火大会を意識した企画があったためと思われる。

短い時間では大きな布をすべ



て埋め尽くすことは出来なかったが、お披露目の時間になり、スタッフの方々によって布を広げながら会場を練り歩いて頂いた。公園の外灯やキャンドルの灯りに照らされた布絵は美しく、会場の皆さんから大変好評だった。

<課題・改善点>

- ・ 最初は布を手で切り裂いて貼ってもらう予定だったが、大人の力でもなかなか布を裂くのが難しい素材が多く、結局はハサミが必要に。追加で裁ちバサミを2つ購入した。またボンドの量が足りず、大き目の木工用ボンドを3つ追加で購入した。
- ・ 参加者が増えてくると、ハサミやボンドの数が足りず、2〜3人で一つの道具を譲り合って使ってもらうことになり、結果的にひとりの参加者が滞在する時間が長くなって、効率的でなかった。次回はハサミ・ボンドを最低でも5つずつは用意したい。
- ・ 大きな布の調達方法も考える必要があるが、端布も意外と集まらない。一人の人が集めたのでは同じような素材・色彩の端布が多くなり、出来上がりに面白みがなくなる。様々な素材・色彩の端布を集める為には、事前にスタッフや友人知人などに声がけするなどの工夫が必要。
- ・ 布絵のコーナーが会場の角に当たったため、コーナー入り口付近にあたる布の左側部分にばかり参加者が集まってしまい、逆にコーナー奥に配置された布の右側部分はあまり参加者の手が入らず、布絵のバランスに偏りが出来てしまった。参加者をコーナー奥に促したり、端布や道具を2〜3箇所に分けて配置するなどの対処が必要だった。
- ・ まさしく「布で絵を描く感覚」で取り組んでもらった結果、参加した子供達は夢中になって製作してくれたが、その分だけ1つのモチーフが出来上がるまでに時間がかかった。
- ・ 今回のように短時間の企画の場合は、端布をある程度の大きさや形にカットしておき、モザイク模様 zu どんどん貼り付けてもらったり、ハサミを使わずにモチーフを作ってもらおうと良いかもしれない。逆に時間がたっぷりあれば、針と糸を用意し、縫い付けて留める作業などもあったら面白い。



ほっとけない東日本・えどがわ線香花火大会

「キャンドルシェードワークショップ」報告

NPO 法人地域交流センター

研究員／照明デザイナー

山下匡紀

今回のキャンドルシェードワークショップは、線香花火の火種となるキャンドルの風除け用の紙コップを活用しました。今回主催された『ほっとけない』の高木さんから、せっかくだから「心に残るようないい形にしたい」という依頼もあって、紙コップに絵を描いたり、メッセージを記入する形で簡易版行灯として準備しました。ワークショップに参加されていた殆どの人が、自分で描いたコップを探し、見つけて、そのコップのキャンドルの火で線香花火をつけていたのが印象的でした。線香花火に込められた願いや思いが一緒になった瞬間だと思っています。

元来日本では火自体が死者を弔い、慈しむ意味合いもあります。その点からも江戸川の線香花火とキャンドルの炎の組合せが、単なる「花火と花火の火種」としてだけでなく、総合的に震災被害者を弔う形となったことが、花火大会最大の特徴になったと思います。今年は各地で花火大会中止が相次ぎ、線香花火大会が数多く実施されたのですが、そのなかでも江戸川区の『えどがわ線香花火大会』は細部にまでこだわりのある大会であったと感じました。この場を借りまして当ワークショップにご支援、ご協力頂きました皆様に、厚く御礼申し上げます。



江戸川総合人生大学の力

江戸川総合人生大学事務局 鈴木 英也



江戸川総合人生大学は2年間の学びの中で地域貢献を目指す場として2004年に開学しました。江戸川区が運営主体です。そして本イベントを企画・運営した「ほっとけない」は江戸川総合人生大学江戸川まちづくり学科を卒業した学生及び講師で構成された市民活動グループです。

江戸川総合人生大学は建学の精神として、『学びと実践』を掲げております。区の歴史や現状を学ぶ講義や、第一線でまちづくりに活躍されている市民の話を現場に行き聴く等、単に学ぶだけでなくフィールドワーク・グループワーク・発表を通じて調査力や課題提案力を磨きます。また2年次には「社会活動体験」として既にある活動団体へ現地体験したり、自分達で活動グループを立ち上げることを卒業のための必修課題にし、クラスごとに市民向けのイベントも企画・運営するなど実践力を高めるためのプログラムに取り組んでおります。

「ほっとけない」メンバーは3人しかいないため、イベント当日は会場準備・受付・警備・各種ワークショップの運営・夕市の屋台・線香花火大会の運営など多くのスタッフが必要となり、人生大学卒業生（約400名）や在学生の中から有志スタッフとして約50名程が活躍しました。上記のような学びと実践を普段から経験しているからこそ、「ほっとけない」の企画を無事に運営し、けが人もなく終わることが出来たのではと思っています。

一方で「ほっとけない」グループの活動は、企画力・巻き込み力に優れており、人生大学卒業生・在学生がスタッフとして参加し経験を積むことは、各自の今後の活動において血や肉になり生かされていくと確信しております。

今後も江戸川総合人生大学、そして地域住民の方が場の雰囲気を楽しみながらそれぞれの思いを共有し、つながりを育んでいくことを微力ながら支援していきたいと思っています。



「手作りサークルポケット」による風ぐるまの販売。（売上の一部を募金として寄付）



夕市の屋台には「かき氷」の出店もありました



在学生有志スタッフによる屋台準備

「ほっとけない東日本～知りたい！知らせたい！ 被災地 生の声」は万華鏡のようでした

江戸川総合人生大学 江戸川まちづくり学科長 佐谷 和江

2011年8月27日（土）の「ほっとけない東日本～知りたい！知らせたい！被災地生の声」は、ワークショップのように数時間、参加者みんなが同じプログラムに沿って共通の体験をするというよりは、お祭りのようにいろいろな露店・プログラムがあり、来た人は思い思いに参加して被災地に想いを馳せるというものでした。

たくさんのプログラムはどれもがよく考えられていました。当日の私の感想を羅列すると、「おと絵がたり、詩情豊かだな、アニメの過剰さの対極でシンプルさの力だな」「石巻の渋谷さん、悲惨で多忙な状況なのに元気そうで何よりだ」、「大河原さん、なんて理不尽な目にあってるんだ、がんばってほしいな」、「山口さん、淡々と話してるけど大変だったんだろうな」「応援影絵巻、心にしみるな」「布絵ワークショップ、昔やったことを思い出すな、このお母さん、なかなかやるな〜」「ビールと焼きそばおいしいな」「6期生は相変わらず仲良しだな」「7期生も活躍してる！よかった」「共育プラザの中学生たち、AKBをこんなに何曲も踊れるなんて、この情熱を何かに活かせないかな」「線香花火大会、キャンドルの演出がきれい」などでした。

喜怒哀楽いろいろな感情が現れ、タイトルにあるように、「このイベントは万華鏡のようだ」と思った次第です。また、参加者それぞれが違った印象をもったであろうことも万華鏡のようでした。

そして、たくさんのプログラムが実行できたのは江戸川総合人生大学があったからこそであり、改めてその存在の大きさを感じました。例えば、ファシリテーショングラフィックで記録する人を3グループも集めるのは一般の地域では大変なんです、江戸川区ではそれが簡単にできる。これはスゴイことです。

私はイベントを振り返る時、「多くの参加者に気づきがあったか」「その気づきを共有できていたか」に着目します。また、「気づき」は、すぐに忘れてしまうものより意識や行動の変化につながるもの、極端に言えば「これまでの世界観を揺さぶられてしまうような気づき」があったかどうか注目します。今回のイベントでは、本当にいろいろな気づきがありました。また、影絵巻というすばらしい共有の方法にも出会えました。世界観を揺さぶられたということと大げさですが、「大河原さんの野菜を何とか売りたい」、「影絵巻をアレンジした共有方法を発明したい」「江戸川総合人生大学のよい点をこのイベントで感じたことを使って表現したい」という新たな行動につながる気づきもありました。いろいろな点で実りあるイベントでした。

ほっとけない+Qの皆さんやスタッフとして係わった江戸川総合人生大学の関係者や江戸川区役所の皆さん、大変お疲れさまでした。また、次回も「気づき」のあるイベントを期待してます。



大河原さんが淡々と苦境を語る



すばらしい共有手法 応援影絵巻

『ほっとけない 東日本』協力者・協賛者名簿(敬称略)

○後援：江戸川区

○昼市ゲスト：渋谷秀樹(宮城県石巻市)・大河原伸(福島県田村市)・山口俊文(江戸川区職員)・おと絵がたり(神奈川県川崎市 代表 加藤妙子)
藤江徹(大阪府大阪市)

○協賛団体・企業：小岩フラワーロード商店街

上小岩小学校PTA有志・大塚製薬(株)・西尾レントオール(株)・
NPO法人すぎとSOHOクラブ・(株)山善工務店・
すきま南風・モニュメント6・参画はぐくみ工房

○協賛者(個人)：吉野勝敏・棚橋幹夫・渡邊良光・矢郷恵子・岡田敏克・渡辺直樹・
広瀬薫・奈良夕子・江口ミサ(hair ELISE)・前川洋一・渡辺修治・
渡辺恵美子・目々澤美智子・高木理恵・竹原京美

○協力団体

『募金活動』 共育プラザ南小岩…宮飛雄馬・佐々茉莉江・松田栞里・安松萌々
川原菜々恵・渡辺美希・鈴木文菜
(指導員)小堀副館長・鈴木・鹿野

『ちゃぶだいカフェ・備品貸与他』 江戸川区土木部災害対策課

『居酒屋かるがも』 上小岩小学校PTA有志…代表 金子義隆

『布絵ワークショップ』…高島奈穂美

『キャンドルシェードワークショップ』…地域交流センター 山下匡紀

『アルファ米炊込みご飯販売』 日本防災士会江戸川区支部…石井修一・堀格

『豆乳入りドーナツ販売』 江戸川区福祉作業所分室ベリィソイズ…所長 橋本陽介

『バザー』 江戸川フロンティア…担当 元木カツ子

『生花販売・生花アクセサリーワークショップ』 あとりえ fu-ro…小山玲子

『手作り小物販売』 SOUP…横田美佐緒

『鈴木カキ氷商店』 江戸川総合人生大学有志…代表 鈴木英也

『福島有機野菜販売』『線香花火販売』 江戸川総合人生大学有志…代表 島田久市

『シャボン玉・鈴虫販売』 すきま南風…徳田邦衛、松浦幸恵

『手作りストラップ』 野口ファミリー…代表 野口千加子

『手作りかざぐるま』 手作りサークルぼけっと…代表 高島奈穂美

『モイスタチャーミスト噴霧装置貸与』 西尾レントオール(株)…所長 高橋賢一

○開会のあいさつ

昼市…江戸川区土木部災害対策課課長 秋元孝行

小岩フラワーロード商店街副会長 中川武久

夕市…江戸川区文化共育部健全育成課課長 関山健二

小岩フラワーロード商店街副会長 藤沢進一

○協力行政機関

南小岩コミュニティ会館・江戸川区小岩事務所(地域サービス係)・江戸川区土木部災害対策課・江戸川区文化共育部健全育成課・共育プラザ南小岩・江戸川区ボランティアセンター・えどがわエコセンター・小岩清掃事務所

○STAFF

江戸川総合人生大学

＜江戸川まちづくり学科＞

鈴木英也・鳥海久江・高島奈穂美・田中優子・金子律子・金森典子・田中雅巳・堀智代・稲垣憲三・山口昭和・萩原ツヤコ・小林隆子・野地次男・堀田侔・平野千鶴子・中山昭男・富士野いつ子・千村英子・白井昌夫・加藤加代子・手塚貞雄・斎藤彰吾・太田耕二・寺久保好子・矢部洋子

＜国際コミュニティ学科＞

川瀬隆弘・大木弘子

＜こども支援学科＞

金井佑夫・小谷勝彦

＜江戸川総合人生大学事務局(現・旧)及び関係者＞

佐谷和江(学科長)・山口俊文・棚橋幹夫・吉野勝敏・金久保幸雄・福富章・福富幸子・野地洋子

＜その他＞

柴山潔(上小岩小学校 PTA OB)・神谷知幸・高橋利明

○メディア

東都よみうり… 8 / 26号『ほっとけない東日本』イベント告知記事掲載

9 / 9号『ほっとけない東日本』開催時の様子を写真2枚とともに記事掲載

FMえどがわ… 8 / 22(月)夕方5時からの番組に生出演! 高木・竹原が『ほっとけない東日本』のイベントの魅力を紹介

J. COM…… 9 / 5(月)～11(日)ほっとセレクション台東・すみだ・江戸川という地域のイベントを紹介する30分番組に『ほっとけない東日本』のイベントの様子を3分程度放送

○企画・主催

＜ほっとけない+Q＞

高木理恵・竹原京美・竹迫和代
島田久市

関係資料

- ・ 当日プログラム
- ・ 新聞記事(東都よみうり)
- ・ 勇気野菜プロジェクト
- ・ 自主研究活動報告書(共育プラザ南小岩)
- ・ チラシ

★3. 11を風化させない。その想いをみんなと共に・・・

ほっとけない東日本～知りたい、知らせたい、被災地 生の声

【星市のプログラム】

13:30 開 会

13:40 第一幕 ころの意をあげる

○影絵巻の上演 by おと絵がたり

14:00 第二幕 ころをよせあう

○3.11を語る

ゲスト：大河原 伸さん（福島県田村市）

渋谷 秀樹さん（宮城県石巻市）

山口 俊文さん（江戸川区職員）

○アープルに分かれて意見交換

15:30～15:40 休 息

15:40 第三幕 ころの声を表現する

○被災された金での方へむけて、応援影絵巻づくり

影絵巻づくりの支援 by おと絵がたり

16:20 閉 会

＊引き続き、夕市が出来るがもひろばにて開催されます！

【バートナース紹介】

おと絵がたり

大型の影絵巻とオリジナルの音楽と踊りや効果音で、地域に伝わる昔話や様々な物語を演じることで、物語の中の「心のごちそう」を伝え、わかちあひ、多くの人とつながり、温かみのあるまちづくりに貢献する活動を行っている市民活動団体。2003年4月、川崎市立佳吉小学校の読書活動が母体となって始まった。川崎市内外の親子、約20人が活動している。おと絵がたり画像は、you tube で観ることが出来る。「otoko story」で検索してほしい。

【ゲスト紹介】

大河原 伸（おおかわら しん）

昭和31年、福島県田村市生まれ 55歳

高校卒業後、2年間の農業研修後就職。5年後、農業が嫌いになり、他の職業を考へることで農業を再考することになる。そこから「有機農業」への道を歩む。年間50～60種の野菜、平飼いの鶏のタマゴを契約家庭に宅配し25年。25年前、結婚後劇団「赤いトマト」を結成。人形劇を中心に1400回の公演。趣味は、楽器をいじること（ギター、ピアノ、手づくり楽器等）。

2男3女の父。

渋谷 秀樹（しづゆ ひでき）

1959年10月24日 石巻市誕生まれ。

1982年 石巻市社会福祉協議会 知的障害者援護施設設まりどり園の指導員としてスタート。途中、ボランティア担当になり、ひよこり竹道氏（本企画の主催メンバー）と出会い、それ以来友達として交流を続けている。社協には、デイサービスや早成の合併で支所勤務を経て、足掛け約30年近くお世話になっている。



2011年7月、災害復興支援対策員に異動。仮設入居者等支援事務所に就く。青少年非行防止の石巻地区BBS会のお手伝いを平成10年まで続ける。

趣味・・・今は温泉巡り、地元の野球チームの東夏の試合を見に行くこと（今年には行けそうにないけど・・・）。

時々映画鑑賞。時々まったりと旅行。付き添いでコンサート！

山口 俊文（やまぐち としふみ）

江戸川区職員。5月に一通関程、宮城県仙台市の避難所支援に赴く。

★本企画の主催：「ほっとけない+Q」 後援：江戸川区

ほってけな東日本地図



被災地の生の声を届ける
「ほっとけない東日本」開催

江戸川区

南小宮コミュニティセンター（江戸川区南小宮）で、被災地生の生の声を届ける「ほっとけない東日本」が開催された。主催は「ほっとけない東日本」実行委員会（高木昭彦代表）。

午後一時30分、開会式が行われ、約100人が参加した。まず、高木代表が「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、



「ほっとけない東日本」の開催に協力している子どもたち（高木代表）

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、



江戸川区の花火大会中止を受けて開催された「ほっとけない東日本」

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「ほっとけない東日本」

8月25日開催

大規模な震災被害を受けた「ほっとけない東日本」実行委員会（高木昭彦代表）が、被災地生の生の声を届ける「ほっとけない東日本」を開催した。主催は「ほっとけない東日本」実行委員会（高木昭彦代表）。

午後一時30分、開会式が行われ、約100人が参加した。まず、高木代表が「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

「被災地生の生の声を届ける」という趣意を述べ、

東都よみうり
H23.8.26 (金)

再起動！

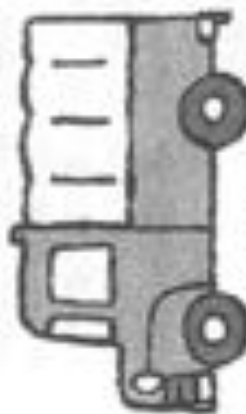
鄭気野来 プロダクション

[illegible]

エネルギーも、支援も、
分散型あり！ 地産地消あり！



秋津波の大襲撃の時、
 津波にのめり込んでいた船中、
 船のなかで一人の男が泣いた。
 彼は、この世から去るまで、
 有難いことを思っていた。
 今回の津波は、
 多くの命を奪った。



http://yuukiyasai-project.seesaa.net/
mail address : qe7a-tick@asahi-net.or.jp

チャンプルー・ブログから・・・・・・・

梅樹野苑は抱いししい憂心。賢てた人とそれを流通する者。そして
更えよくできる方たちの抱いを離れて、元気の出る野苑を届けら
れた。そして野苑アロマという名前を付けました。

そのころは、私語をなさず静寂が充ちていました。自分だけがわくわく、うきうきだったあのとき、何と違わず、何こうよ！と叫びたい衝動が胸の奥から湧いてきたのは、精神論的にも肉体的にも

仕事の内容もかわり、給料の安い目を通しているからかな
と皮肉に笑って、おれはさう思っている。さういふこと

そんな時、行くぞ！ 行くか！ 行くよな！ 行くき！で再読解が楽になりました。あっという間に読めます。スイッチが入ったらしいです。これは面白い本だからです。

よりあまのこが聞かされていた男が母とチャンプールで遊んでいた。

[illegible]

「その通りです。でも、それは、その通りです。」

郵便振替口座：00270-4-140491
口座名：農研機構プロジェクト

ゆうちょ銀行では
029店 当座 0140491

東京都立大・文芸学部の白一玉先生の所に、

青島野蘭プロシエクト

〒228-0011神奈川県横浜市南区森林町5-12-7
 ティンズ・ジャパン 第3ビル TEL.042-746-9745
 横浜スカイコンネット・MANET管理

自主研究活動 ほっとけない東日本～知りたい！知らせたい！被災地生の声 報告書

平成 23 年 9 月 2 日
共育プラザ南小岩防災クラブ

1. 日 時 平成 23 年 8 月 27 日（土） 10：30～19：30
2. 場 所 南小岩コミュニティ会館 2F スポーツルーム（南小岩 7-17-10）
かるがもひろば
3. 目 的 自主研究活動の「いま、伝えたいこと」をテーマに、地域の防災イベントに防災クラブとして参加する。被災地へ伝えたい・被災地から伝えたい、双方の「伝えたい」を中高生のできることの中から考え実行する。

4. 実施内容

①街頭募金

南小岩フラワーロード商店街（小岩駅南口駐輪場前）、かるがもひろばでの募金活動。

集まったお金で参考書などを購入し、被災地の中高生に寄贈する。

※江戸川区被災地派遣職員へ協力を依頼中

8 月 23 日 小岩警察署に「道路使用許可申請書」を提出

8 月 25 日 フラワーロード商店街 藤澤議員に使用許可の連絡

8 月 26 日 小岩警察署にて「道路許可申請書」受け取り

小岩駅南口駐輪場 橋本康利さん（南小岩昭和通り商店街相談役）
に使用許可の訪問

募金総額 76,671 円

②被災地から生の声

被災地からゲストをお招きして 3 月 11 日を語っていただく。中高生はそれを記録に残したり意見交換に加わったりしながら、その想いを共有し伝える。

【ゲスト】

- ・大河原 伸さん（福島県田村市の有機農家）
- ・渋谷 秀樹さん（宮城県石巻市社会福祉協議会職員）
- ・山口 俊文さん（江戸川区職員 宮城県気仙沼市の避難所支援）

おと絵がたり（影絵と音楽と語りが一体となって物語を表現）

応援影絵巻メッセージ作り

③その他イベントスタッフとして従事

- ・開会あいさつ、閉会あいさつ
- ・「勝手に友好都市宣言」採択
- ・線香花火の販売補助
- ・ダンス披露

5. 参加中高生

No.	氏 名	学 校	学 年
1		上一色中学校	1
2		小岩第五中学校	3
3		小岩第五中学校	3
4		小岩第五中学校	3
5		小岩第五中学校	3
6		小岩第五中学校	3
7		小岩第五中学校	3

6. 写真報告

10:30～12:30 街頭募金活動



小岩駅南口の駐輪場脇に並んで募金活動をしました。募金箱や横断幕を持ち、募金への呼びかけを行いました。通行人やバスを利用する方々が足を止めて募金をしてくれたり、小さな子供がお金を持ってきてくれたりして、たくさんの募金が集まりました。

また、中高生に『頑張ってるね』と声をかけながら募金に協力してくれたり、多くの温かい気持ちを受け取りました。



13:30～14:00 昼市第一幕



開会あいさつ。「これから『ほっとけない東日本、知りたい、知らせたい、被災地生の声』を始めます。」

影絵と音楽と語りが一体となって物語を表現するおと絵がたり「びんぼう神とふくの神」の上映。川崎市から参加して下さいました。

14:00～15:40 昼市第二幕



被災地からのゲスト 2 名と被災地派遣で現場へ行った（5/8～5/14）江戸川区職員 1 名が、それぞれ 3 月 11 日に目にしたことや避難所の様子などを語って下さいました。



その後、3グループに分かれ、さらに詳しくお話を聞いたり意見交換をしました。中高生もそれぞれの輪に加わりました。

15:40～16:20 昼市第三幕



応援影絵巻メッセージ作りにも参加し、参加者みんなで被災地への想いを表現しました。

16:00～19:30 夕市



かるがもひろばでの募金活動でも多くの方々のご協力をいただき、たくさんの募金が集まりました。



宮城県石巻市、福島県田村市、神奈川県川崎市、大阪府大阪市（阪神淡路大震災での被災者）、東京都江戸川区で『勝手に友好都市宣言』として、署名のセレモニーを行いました。たくさんの人たちとの絆を深めることができ、とても晴れやかな表情でした。



中高生は、募金活動の他にもイベントのスタッフとしてお手伝いをしたり、ダンスを披露したりと大活躍でした。



イベントの最後に「えどがわ線香花火大会」を行いました。エコキャンドルと線香花火の明かりで被災地の鎮魂を願いました。

朝から夜まで一日がかりの活動でしたが、中高生は最後まで一生懸命活動していました。

日本朝敵 旗幟

知りたい! 知らせたい! 被災地生の声

827(土)

登市 南小岩フジニクス会館
2F スポーツルーム 雨天でもやりまち

2F スポーツルーム

お天でもやりまち

13:30
?
16:30

草書四子集

おんがらに

卷之六

宮城縣石卷

加
性
整

卷之四

血中

日市

かるがもひろば

西天中上

16:00
19:30

ハサミ

$$P = 2.1 \times 10^{-6} \text{ cm}^3 \text{ cm}^{-3}$$

行旅をりし

廣徳

有明正典刑

100

2本百円で販売いたします

特別開催

久松市線香花火大会

19時より区内各所で同時開催

かるがもひるは

雨天中止

☆ 毎日朝に10分、1日1回使うこともOK

写真展示

西小造三會館ロビー

主筆 毎江村のい+Q
企画 江戸川 氏
編集 江戸川 氏

お問い合わせも ぽつとけなひ+Q 代表 9かぎ+4E 090-2499-9751

お問い合わせは ぽんてなう+Q 代表 944-41 090-2499-9751

『ほっとけない 東日本 知りたい！知らせたい！被災地生の声』 ってどんなイベント？

3.11の東日本大震災を経験したことにより、それぞれが感じた思いがあります。
あの日のことやその後の生活、変わったこと・変わらなかったこと。
ある人はふるさとを思い、ある人は今住んでいる地域コミュニティの絆の大切さを考えました。
私たちに出来ること、まだまだあるはずです。
被災地からの生の声を聞いて、一緒に考えたり、話したりしてみませんか？

鎌 市

おと絵がたり

動画と音楽と語りが一体となって、
物語を表現します。
動画を鑑賞していただくとともに、
被災地に向けた応援メッセージを
音で動画に添えます
(参加費無料)

被災地 生の声

ゲストの方
渋谷貴樹さん
宮城県石巻市から

大河原伸さん
福島県田村市有機農家「青柳堂」
江戸川区職員が被災地での活動

街頭募金

共済プラザの中高生が
中心になって
行います。
集まったお金は
被災地の子どもたちに
寄付させていただきます。

夕 市

アートグループによる ワークショップ

「ほっとけない東日本・・・」
のシンボルを作ろう

参加してくれた
みなさんに
記念品をさしあげます

行商チャリ隊

自転車の荷台を使った
小さなお店

生花
かわり風車
etc...

模擬店

非常食7&7の
炊き込みご飯
スープ
それから、それから？
シャボン玉や鈴虫も・・・
その他色々お楽しみ

ちゃぶだいこんで
語り合おう！
話し足りない人集まれ！
37℃マスターがお相手します

ちゃぶだいこん7℃



東北から
おいしいお酒が届きます。
おつまみは何にしましょうか・・・
暑いからビールもおいしいよね？
ソフトドリンクもあります

居酒屋かるがも

福島県田村市の有機農
産物から新鮮野菜

産直野菜販売

特別開催

『えどがわ線香花火大会』

19:00～メイン会場：かるがもひろば
事前に対びかけ、区内各所で同時開催
(雨天中止)
国産線香花火2本100円で販売します

『ほっとけない』ってどんなグループ？

江戸川総合人生大学
江戸川まちづくり学科講師竹添和代と
同学科一級生の高木理恵・竹原京美を中心に、
身の回りのほっとけないことをテーマに活動中。
「ほっとけない」をほおっておけない人との
関係づくりを大切にしながら、不定期にイベントを
企画・開催。今回は3回目のイベント。

+Qって？

江戸川総合人生大学
江戸川まちづくり学科
二級生 島田久希
復興宮食会長
福島県出身
教員への熱き思い
「ほっとけない！」

☆このプロジェクト及び「ほっとけない」の活動を応援して下さる方から、協賛金(一口1000円)を募集いたします。
ボランティアも募集中！「ほっとけない」をほっとかないで！よろしくお願いたします。
お問い合わせ：「ほっとけない+Q」代表 高木理恵 090-2499-9751 me2424n@pcn.home.ne.jp

編集先 中野郵便組合 郵便番号 10-221241 ほっとけない 代表 高木理恵



『ほっとけない東日本～知りたい！知らせたい！被災地 生の声』
『特別開催 えどがわ線香花火大会』 記録集

平成 23 年 9 月

主催：ほっとけない+Q

連絡先：高木理恵（090-2499-9751）

*本記録集の印刷費用として、協賛金の一部を使わせていただきました。

末筆ではございますが、深く御礼申し上げます。